

さばかん通信

さんばんぜ かんきょうがくしゅうかん



記事を書いた人

科学コミュニケーター 大瀧



企画展にむけて標本や模型
を作っています。標本を作る
ために脚やヒシを動かしてい
ると、新しい発見がいっぱい
で楽しいです。オサガニの脚、
意外と毛深くて驚きました。
あと、ニホンスナモグリは黒
くて小さな眼が好きです。

今月のテーマ

さんばん ぜ さが 三番瀬の「あな」を探そう

11月23日から、企画展「あな」が始まります。「三番瀬」の「あな」といえば何でしょう。今回は、潮が引いた干潟で見られる生きものの巣穴をご紹介します。これを読めば、企画展がもっと楽しくなるはず! さあ、足元に開いた小さな「あな」を見つけに行きましょう!

ななめに進め! カニの巣穴

潮だまりの近く、湿っていて砂がやわらかそうな場所を歩いてみましょう。まるで洞くつの入口のような、ななめに開いた穴を見つけました。「オサガニ」の巣穴です。長方形の体と、長い棒(眼柄)



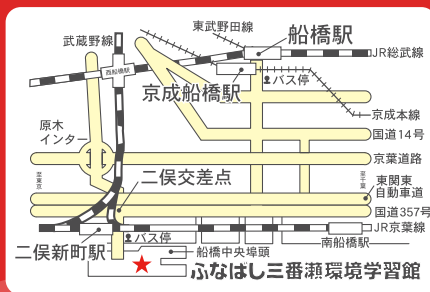
の先についた眼が特徴のカニです。潮だまりの水の中から眼だけ出し、周囲を見ていることもあります。危険を感じるとすばやく横向きに歩き、長い眼柄をたたんでスッと穴に逃げ込みます。穴の深さは10cmくらいありますが、逃げ込んだ直後は上の方にいることが多く、つかまえるチャンスです。

すな やま さが すあな 砂の山を探せ! エビの巣穴

次は、大きな水たまり(潮だまり)の中をのぞいてみましょう。周りより少し黒っぽい砂でできた、小さな山を探します。山のてっぺんには穴が開いていて、ときどき水が噴き出しています。これは「ニホンスナモグリ」というエビのなかまの巣穴です。ニホンスナモグリは、砂に含まれる栄養を食べてくらしています。巣穴の深さは40~50cmくらい。体がとてもやわらかいので、巣穴の中で体を曲げて、進む向きを変えることができます。



今回は、干潟で見られる、カニとエビの巣穴をご紹介します。生きものによって、巣穴の入口の形やつくりが違います。穴に注目して、足元をじっくり観察してみましょう。巣穴の入口が見つかったみなさんは、中がどうなっているのか気になりませんか? 11月23日から始まる企画展「あな」では、巣穴の中の生きものの様子を、模型と標本でご紹介します。ぜひ遊びに来てくださいね!(大瀧)



ふなばし三番瀬環境学習館

[開館時間] 9:00~17:00 [休館日] 原則月曜日(祝日・休日と重なった場合は次の平日)、12/30~1/3 [アクセス] 電車・バス: JR船橋駅・京成船橋駅、JR二俣新町駅から京成バスシステム「船橋海浜公園」行終下車/車: 国道357号二俣交差点を「船橋中央ふ頭」方面へ(駐車料金普通車: 500円) [お問い合わせ] 〒273-0016 千葉県船橋市潮見町40 メール: pr@sambanze.jp 電話: 047-435-7711 FAX: 047-435-7712 公式ホームページ: <https://www.sambanze.jp/>

野鳥インフォメーション

三番瀬では主に秋から春にかけて見られるチドリはななみです。夏にも少数見られます。他のチドリと比べて繁殖羽への換羽が早く、12月には繁殖羽の個体を見ることができます。(大口)

シロチドリ
繁殖羽では頭部がオレンジ色に